



見事な石積の集落。急峻な斜面に石積を築き、家地を確保し田畑がある。集落の一般的な形として家のかたまっている所があり、何とか

1枚の写真で紹介できるものだが、この地はそれができない。県道332号から入り「ヤスタ」方面へ、ある



いは「下ヨコホキ」と入り組んでおり、聞くと又になる所が多く「二の又」から「三の又」まであるという。そんな谷間と山に囲まれた22軒の集落のどこに行つても石積のおりなす風景には、目を見張るものがある。

広大な国有林があり、町境に近い集落なので猪、鹿が出る。「この前、庭を鹿が歩きよつた」という程だ。その侵入を防ぐため、いたる所に柵が設けられている。菜花は食うし、木の芽は食うし、猪より鹿の方が始末が悪いそうだ。その為、今年も地区民総出で、2500mの柵の延長を予定している。ポランテアの総出もある。この地の県道は「四万十

川ウルトラマラソン」のコースになっており、1世帯1人以上の参加で運営を盛り上げている。

泣きもみじ

昔、炭焼きが材料を切っていた。大きなもみじがあり、「これも炭に」と鋸を当てがった。すると、そこだけ雨が降った。「もみじが泣いている」と思った炭焼きは切るのをやめた。大人1人が手を回したよりも太いもみじだ。

県道332号、元は森林鉄道の軌道であった。トロッコに丸太1つという大材を搬出していたという。住民に溶け込んだサービスのある鉄道で、それに乗って嫁に来た人もいる。「今に思えば良き時代だったかも」今も良き時代に変わっていない。環境抜群で、数人の若者がいる。皆さん嫁待ち、とのこと。全国過疎化の時代、人口増はうれしい現実だ。



町のうごき

(2月28日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	9,400	-18	男 6	16	10	18
女	10,500	-16	女 4	12	8	16
計	19,900	-34	計 10	28	18	34
世帯数	8,815	-9	(2月中の届出)			

四万十川の 水質状況

	適正値(mg/l)	2月16日
リン酸	≤ 5.0	<0.1
硝酸	≤ 0.5	0.901
アンモニウム	≤ 5.0	<0.1
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.350
科学的酸素消費量	≤ 10.0	欠測

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)